

注目！甲州人 38

独立行政法人国立女性教育会館
理事長

萩原 なつ子氏

クリスチャンの家庭で自由に伸び伸びと育った少女は、高二で英国語学研修へ。大学は英文学科を選んだものの4年制女子大生への激しい就職差別に愕然。就職した広告代理店を3ヶ月で結婚退職し、子連れで母校に復学して社会学者の道を目指す。日本で屈指の環境社会学、市民活動論、ジェンダー論の専門家となり、2周遅れの日本の、男女共同参画を推進する萩原なつ子理事長に山あり谷ありの人生の軌跡を伺った。

聞き手 山梨県人会連合会広報委員長 山下昌彦



―ご出身は笛吹市の石和ですね
そうです。石和町の四日市場の
出身です。

祖母と両親、兄と姉二人で私が
末っ子の7人家族で育ちました。

―どんなご家庭でしたか

父は当時の運輸省の国家公務
員で東京の単身赴任が長くて、母
は東京時代は看護師でしたが石
和に来てからは出荷組合の事務
をやりながら、柿の産地ですので
柿畑も少しですが作っていました
。祖父母が二人とも教員でク
リスチャンでした。それで父の名
前は伊藤真理夫ですし、祖母の妹
の大叔母はナザレ修女会のシス
ターになっています。小さい頃か

らクリスマスにはツリーをキッチン
と飾って讃美歌を歌うような家
庭で育ち、この祖母と大叔母には
大きな影響を受けました。当時
ポールラッシュが清里で清泉寮な
どを建設中でしたが、大叔母はナ
ザレ修女会から派遣されて手伝
いに行っていたのでよく家にも寄
りました。私も母と一緒に清里に
行きました。ナザレ修女会は英国
国教会系ですから大叔母は英国
にも何度も行っています。4、5歳
の頃に英国から帰って来た大叔
母がウエストミンスター寺院など
の英国の風景を当時の幻灯機で
スライドショーを見せてくれました
。この時の印象が強烈で英国に

萩原なつ子氏に聞く

Linkage Interview

憧れるようになり、その頃は「将来は通訳になる」と周りに言っていました。通訳にはなりませんでしたが、後の語学留学や大学の英文科進学に繋がっています。

— 小中学校時代はどんな

父も水泳を始め何でもできるスポーツマンでしたが私も運動は得意でした。小学校では陸上競技と水泳の選手で、特に水泳はコーチを付けてもらった途端に早く

なつて県大会で記録を出したりしましたが、中学校ではバスケットボールに転向しました。バスケット部の顧問の先生が素晴らしい方で石和中学を強豪にしてくれました。それで高校でもバスケットボールを続けたくて姉二人は学区外の日川高校に行ったのですが、私は女子バスケット部が強かった女子校の山梨高校を選びました。姉二人の制服が使えなくなつて母がため息をついたのを覚えています。

だからと言ってスポーツ一辺倒と言う訳ではなくて読書も大好きでした。家には父の哲学書から

絵本まで沢山の本がありましたので片っ端から読みました。学校の図書室の本も読み尽くしたくらいです。バスケット部の顧問の先生は体育館の部室に本を置いてくれていてその中にはフィヒテの哲学書までありました。音楽も好きで、合唱もやりましたから中学校の同級生には私は音大に行くのではと思われていたぐらいです。

— 高校一年でイギリス語学研修へ

山梨高校に入学してバスケットボールに打ち込み、生徒会活動も熱心にやりました。そんな時、朝日新聞に朝日イブニングニュースとJTBの企画で大学生向けの語学研修募集の広告が載りました。すると姉たちが何故か「なつ子」をこれに行かせよう」と皆でお金を出し合つてイギリスを中心とした語学研修に行かせてくれたのです。忘れもしませんが、大学生対象の研修だったので父が主催者に電話して「高校一年生だが親が全責任を持つので参加させて欲

しい」と直談判してやっと認められました。ホームステイしながらイギリス全土とフランス、アメリカを回つて帰ってくる研修で春休みを挟んで1カ月位学校を休みましたがこれが私の原点になりました。女子校を選択したことも私のその後の人生のために良かったと思います。女子だけの学校なので男女のバイアスなしの高校生活を伸び伸びと送ることが出来たからです。

— 明治学院大学英文学科に進学します

これも大叔母が関係します。ナザレ修女会は後に三鷹に移りますが当時は港区白金台にありました。それで大叔母は会うたびに進学するなら白金台にキャンパスがある明治学院、明治学院と私に薦めるのですっかり刷り込まれていました。ヘボン式のヘボンさんと島崎藤村が教鞭を執っていた学校でもあるし英文学科が有名でしたので、バスケットボールの名門校に進む選択肢も無かった訳ではありませんが、あまり迷う

ことも無く明治学院大学の文学部英文学科に入学しました。

— 大学で打ち込んだことは何ですか

最初は初台の風呂もないアパートに居ましたが、父がやって来て「ここでは駄目だ」と言つてたまたま大家さんが山梨県出身の東麻布のアパートに移りました。ここは居心地が良くて結婚するまで住むことになりました。英文学の勉強もちゃんとやりましたが、貿易会社でアルバイトをしたり、浅草の塾で英語教師もやりました。しかし、東麻布と六本木は目と鼻の先です。夜な夜な好きなジャズの名店にも通つてました。遊んでばかりいたわけではなく、目指していた貿易商社への就職を考えて大学に通いながらビジネスイングリッシュの専門学校にも通いました。今でいうダブルスクールですが、この授業料は自分のバイト代から捻出しました。この専門学校で機械専門商社の社員だった10歳年上の夫と出会います。

―就活はどんな風に

将来は貿易会社か商社に就職したいと高校時代から英文タイプも習っていました。それなのに当時の4年制大学女子の就職先は全くありませんでした。男女雇用機会均等法もない時代で、女子の募集条件には「容姿端麗」とか「自宅通勤」とか男子にはない条件が並んでいて、しかも男性社員の事務補助でコピー取ったり、電話番したり、お茶を入れたりとかの仕事しかないのです。このことへの怒りが今こうして男女共同参画の仕事をしている私の原点です。それでもやつと小さな広告代理店の募集を見つけ就職しました。しかし3か月後に退職することになります。当時の会社の「常識」で女子は結婚すると「寿退職」という名のもとに辞めざるを得ないのです。

―結婚退職後母校の社会学部に入り直します

専門学校で知り合った夫は自分のキャリアの専門性を磨くために、この時既に4つ目の大学で学

んでいて、まだリカレント教育という名称もない時代では珍しいタイプの人でした。この夫になる人に「何で女性というだけでこんなに不利益な扱いを受けなければならぬのか」とこぼしていると「それは社会構造の問題だから知りたかったら学び直せば」と大学に戻ることを勧められました。

僅か3か月の会社勤務でしたが男性が家に帰れないような働き方を見て「男性の働き方も変えながらでないと女性が社会進出しても共倒れになる」と直感し、男女差別の社会構造を学ぶために明治学院大学の社会学部に学士入学しました。

―更にお茶の水女子大の大学院に進みます

大学に入り直す前に、長女を



出産しました。それで子連れで大学に通っていたのですが社会学部を卒業する頃には「私はもう企業には入らない。研究者の道を目指す」と決めました。明治学院にも社会学の大学院はありましたが、

先生から「社会学は男社会だから女性が研究職のポストを得るのは難しい。家政学なら短大の家政科があるのと比較的ポストに就きやすい」とのアドバイスを受けて戦略的にお茶の水女子大の大学院家政学研究所の門を叩きました。すでに

「家政学の母」と言われるアメリカのエレン・スワロウ・リチャーズの存在を知っていましたので、家政学的重要性を認識していました。彼女は「環境教育の母」とも呼ばれています。私が常に関心を

持ってきた環境の問題がここで家政学と繋がりました。このことを教えてくれたのは夫の親友で一橋大学経済学部で教鞭を執られていた室田武先生です。ここでも夫のアドバイスが私の人生を変えることになりました。お茶の水女子大学の大学院の入試は専門科目の他、当時は二カ国語あつて、一度目はどうもフランス語で失敗しました。2度目の受験で合格しました。「エコロジーはこれからとても大事な学問になるから」と文化人類学者としても高名な原ひろ子先生にご指導頂きました。

―その後、トヨタ財団のアソシエイト・プログラム・オフィサーに就任します

私の大学院でのテーマは「子供とエコロジー」ですが修士論文を書き上げるまでの3年間は日野市で有機農業をやっている団体の活動に参加するために、当時2歳の娘を連れて通いました。この団体は市民の研究活動に日本で初めて助成を行ったトヨタ財団のプ

萩原なつ子氏に聞く

Linkage Interview

ログラム「市民研究コンクール」身近な環境をみつめよう」の助成を受けていたのですが、このプログラムの審査委員をしていたのが指導教授の原ひろ子先生でした。こうしたご縁で修士課程修了後にトヨタ財団のアソシエイト・プログラマー・オフィサーの仕事をやってみないか、ということになりました。このトヨタ財団で当時プログラマー・オフィサーをやっていたのが特定非営利活動促進法（NPO法）の成立に尽力し、日本NPOセンターの設立者の一人である山岡義典さんで、ここで7年間みっちり鍛えられたことで市民による調査研究の手法や課題解決のプロセスを学ぶことができました。10年かかりましたがこの研究をま



とめた博士論文がお茶の水女子大の審査をとり博士号の学位を取得することになります。

――38歳で初めて専任講師に

修士課程修了後は3つの大学の非常勤講師とトヨタ財団の仕事を掛け持ちして働きました。ようやく東横学園女子短大（現東京都立大学）の専任講師に採用され、正規の教員になれた時には38歳になっていました。5年後に助教授に昇任、武蔵工業大学環境情報学部（現東京都立大学）、2006年に立教大学に移り、定年まで勤めました。立教大学には通算16年と一番長い勤務になりましたが、この立教大学は聖公会系の大学ですから聖公会のシスターである大叔母が一番喜んでくれました。

私も強いご縁を感じました。紆余曲折はありましたが先生や夫の助言が功を奏して、女性であつてもこうして研究者の道で自立することができたのはひとえに家族の理解と結婚後に子育てをしながら住んだ夫の実家、娘の幼稚園、小学校の友人家族のサポートがあつたからです。これらの支えがなければ到底やってこれませんでした。

――浅野史郎宮城県知事に招聘されて宮城県庁に出向しました

東横学園女子短大5年目の9月に論文審査が通つて博士号の学位を取得します。その翌年の正月に国際ジェンダー学会で大変お世話になつていた岩男寿美子先生から「宮城県知事が環境とジェンダーとNPOが分かる40代の女性を探している、あなた行く気がある」との打診を受けます。かねてから行政には強い関心を持っていたので2年間の期限付きのこの話を即お受けすることにしました。浅野知事と対面したのは2001年のバレンタインデーで

した。早速その年の4月から2年間、宮城県環境生活部次長として、丁度娘が大学受験の年でしたが仙台に単身赴任しました。研究者にとつて地方自治体の業務を経験できること、予算や条例の作成、議会対応、住民とのやり取りを実地に、しかも自治体の公務員として経験できることは願つてもない機会でした。着任早々議員提案の「宮城県男女共同参画推進条例」の策定に携わり、また「食育の里づくり」という新規プロジェクトを企画から実施までやり遂げることができました。土日ほとんど宮城県内を回っていました。から東京にはほとんど帰っていませんでした。あつという間の2年間でした。

――その経験を活かして消滅可能性都市とされた豊島区の「F1会議」を主宰されます

豊島区は2014年に東京23区の中で唯一「消滅可能性都市」と指摘されましたが危機感を持った区長が緊急対策本部を設置して対策をやるうとしていま

した。当事者である20〜30歳代の女性の声を反映させるべきだということになり、区内にある立教大学の私に座長を依頼してきました。宮城県での経験をもとに「100人女子会」を行い、審議会として設置された」としまF1会議でワールドカフェ方式の会議などを積み重ね、F1世代の声を盛り込んだ政策提言を行いました。実際に豊島区は2015年度に「女性にやさしいまちづくり」関連予算11事業8,800万円を予算化しました。この成功体験を基に豊島区のまちづくりが動き出して全国から注目されました。私は今、山梨県男女共同参画・共生社会推進統括アドバイザーや兵庫県豊岡市の地域啓発アドバイザーとして若者・女性に住み続けたくなる町づくりのためにジェンダーギャップ解消が重要であるという「ジェンダーギャップ解消戦略」という先進的な取組みにかかわっています。

―立教大退職後は国立女性教育会館理事長に就任されました

2018年にはずっと関わって来た日本NPOセンターの代表理事を引き受けることになりました。また20代から通ってきたこの国立女性教育会館では、2022年に立教大学を定年退職すると共に理事長に就任して今年で4年目になります。来年度からは文部科学省から内閣府に主管が移管され(文科省は共管)、名称も「男女共同参画機構」に変わります。低迷したままの日本のジェンダー平等を着実に推進していくためのナショナルセンターとして、全国の男女共同参画センターのセンターオブセントーとして位置づけられました。

―山梨の風土についてどんな思いを
笹子トンネルを
抜けると風景が一
変して色、空気が
変わります。緊張
感が抜けてホッ
としますがそれが



略歴

萩原 なつ子 (はぎわら なつこ)

- 1956年 山梨県笛吹市石和町 出身
- 1975年3月 山梨県立山梨高等学校卒業
- 1979年4月 明治学院大学文学部卒業
- 1985年3月 明治学院大学社会学部卒業
- 1988年3月 お茶の水女子大学大学院家政学研究科修了
- 1995年3月 東横学園女子短期大学専任講師
- 2000年4月 東横学園女子短期大学助教授
- 2001年4月 宮城県環境生活部次長
- 2003年4月 武蔵工業大学環境情報学部助教授
- 2006年4月 立教大学社会学部准教授
- 2008年4月 立教大学社会学部教授
- 2012年7月 NPO法人日本NPOセンター副代表理事
- 2018年7月 NPO法人日本NPOセンター代表理事
- 2022年4月 立教大学名誉教授 (現職)
- 2022年4月 独立行政法人国立女性教育会館理事長 (現職)
- 2024年7月 NPO法人日本NPOセンター理事 (現職)

18歳まで育った故郷ということだ
と思います。山梨県人、特に女性
は働き者で我慢強く、あきらめな
いという特性があると思います。

―人口減少時代の山梨はこれか
らどうあるべきでしょうか

もう人口減少、超高齢化から
は逃げられません。受け止めて山
梨らしい等身大の身の丈に合った
暮らしをしていけば良いと思いま
す。山梨にあるものを大事にして
それを上手く繋げながら楽しんで
生きてゆく。健康寿命ももちろ
ん大事ですが私は社会に貢献する

「貢献寿命」を延ばしましょうと
唱えています。「無尽の精神」でお
互いさま文化を大事にしたいです
ね。

―これからの時代を生きてゆく
若者や女性にメッセージを

「夢は大きく、気は多く」って
言ってます。「やって見なはれ」の精
神で、何にでも挑戦すること。沢
山の人に出会うこと。できれば超
一流の人に会うことです。自分に
枠を嵌めないで諦めないで頑張っ
て欲しいですね。